

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890500303
法人名	社会福祉法人 三恵会
事業所名	グループホームかがやき
所在地	愛媛県新居浜市阿島1丁目7-20
自己評価作成日	平成24年9月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24 年 10 月 5 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームかがやきは、平成23年11月1日に開設致しました。目の前に市の東浜公園が広がっており、開放的でいつでも気軽に散歩や休憩ができます。ご家族の来訪者が多く、休日には遊具で遊ぶ子供さんや、ゲートボールを楽しむ地域の方と会話を楽しく過ごされています。これからもスタッフ一同「笑顔で、共に、生き生きと」を心に利用者様と一緒に生きていきたいと考えています。又、地域密着型介護老人福祉施設うみかぜとの合築となっているため、これからも協力体制を図りながら、地域の高齢者福祉に貢献していきたいと考えております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広い敷地に立地している複合施設内の事業所である。建物や設備は耐震や防災への最新で細やかな配慮があり、利用者の安全安心が守られている。また、公民館並みの地域交流スペースがあり、キッチンや車いすトイレを備え、地域の社会資源としての役割を担うという意気込みが感じられる。管理者やケア責任者は高齢福祉のキャリアが長く、利用者の状態に合わせた支援と事業所運営に取り組んでいる。高齢福祉のケア全般を見据えた複合施設の中で、認知症ケアの事業所として独自性のある取り組みに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホームかがやき
(ユニット名)	虹
記入者(管理者)	
氏名	小笠原 博子
評価完了日	平成24年 9月14日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 合築であるため事業開始時に、施設理念を作成し掲示をし、かつ月曜日の朝の申し送り時に、復唱していたが、これを踏まえ、かがやき独自の理念が必要との職員の声があり、具体的な理念を作成しユニット内に掲示し実践強化に取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 事業所の理念にある「一緒に」という言葉を大切にしている。利用者と一緒に生活することをグループホームの独自性として、ケアの基盤としている。ケア責任者と職員は、利用者との関わりの中で「一緒に」を具体化するよう努めて、理念の共有化にも力を入れている。</p>	ケア責任者は、一緒にいる事とは何のためか、また一緒に生活することで、どのような支援を行うべきかと、理念の本来の意義を見極めようと努力しており、その成果を期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 施設の庭に観音像があり、地域の方が散歩がてらお参りに来たとき、挨拶を交わしたり話をしたりしている。又市の公園・グラウンドが隣接しているため、近隣にすむ人たちとふれ合う機会が多い。地域の神社への初詣や、スーパーへの買い物などは日常的に実施している。</p> <p>(外部評価) 事業所は複合施設の中にあり、色々な機能を備えた地域交流スペースがある。地域に密着することや、地域の社会資源としての役割を担うという強い意思が感じられる。</p>	開設後まだ一年も経っていない事業所であるが、利用者の生活も事業所に馴染み、生活に落ち着きが見られる。今後は、地域に目を向けて、地域密着型ならではの、近隣住民との繋がりを大切にした取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 現在は認知症の研修等に職員が積極的に参加し、事業所内で「理解や支援方法」を勉強している状況で、地域住民を対象に活動はできていない。相談等にはアドバイスさせていただいている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 事業所での状況をパワーポイント等でお知らせし、質問意見、要望を伺うようにしている。その場で返答できるものは実施し、内容に応じて検討し次回に報告するものもある。10/5に外部評価を受けるので状況報告の実施やサービス向上に生かしていきたい。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議では、グループホームについて地域に理解を広げるため、丁寧に資料を作成し説明をしている。資料の準備には時間をかけており、運営推進会議を地域と繋がる場としていることが分かる。</p>	<p>運営推進会議の中で、参加者が利用者の生活を実感できるような工夫や、事業所が開催しようとしている催し物についての意見交換など、さらなる内容の充実に期待したい。</p>
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 開設時のことや、制度についての問い合わせ等で密に連絡を取ることができている。会議にも参加していただいているので、アドバイスや相談等をしていただきながら連携を深めている。</p> <p>(外部評価) 母体法人の福祉事業には歴史があり、事業所は複合施設の中にあるため、管理者は市担当者と普段から高齢者福祉全般での関わりがあり、相談や話し合いは事業所単独の問題に留まらず多岐に渡っており、行政とは双方向な協力関係がある。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 2ヶ月に1回身体拘束廃止委員会を開催し、日常の行動や発言が身体拘束になっていないか話し合い、議事録にて職員全員に周知している。毎年1回職員全体の勉強会を実施し「身体拘束禁止の対象となる具体的な行為」徹底の理解を図っている。玄関は自由に出入りできるようにしている。施設で指針を作成している</p> <p>(外部評価) 身体拘束ゼロは、法人全体で取り組むケアの基本としている。そのため、事業所の設計は利用者を見守りやすいように配慮されている。職員の「声かけがまだまだです」という言葉には、身体拘束ゼロへの思いが感じられる。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 2ヶ月に1回虐待防止委員会を開催し、日常の私達の行動や発言が虐待になっていないか話し合い、議事録にて職員全員に周知している。年1回職員全体会にて勉強会を実施しマニュアル等に基づいて、発見時の対応方法等を周知している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在制度を活用している利用者はいない。研修参加者が制度の説明をする程度で、他の職員は十分理解できていない。必要な時に支援出来る体制が万全とは言えない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約締結時には時間をかけて十分説明するように努めている。介護報酬の改定、制度改正により、利用料が増加する場合などは文章による通知と口頭での説明をする等している。家族等の不安や疑問点にはその都度説明を行い、理解、納得していただくように配慮している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議には、毎回異なる家族や利用者が参加し意見、要望等を伺うようにしている。意見箱等も設置している。市の介護相談員にも定期的に来ていただけるよう依頼中である。得られた意見、苦情については、即反映できるよう取り組んでいる。 (外部評価) 利用者の生活の質の向上には、家族等の協力が必要であるとの認識を持っている。そのため、家族等との話し合いには時間を割いて、意見や要望を言いやすいように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1回の全体会、2ヶ月に1回のユニット会、年2回の人事考課面接(個別)を実施し、職員の声に耳を傾け、やりがいや働きやすい職場作りに努めている。 (外部評価) ケア責任者は、ケア現場で一つひとつ丁寧に職員と話し合い、また、職員を育てるという視点でも、意見の聞き取りを行っている。十分な意思疎通をして、利用者へのケアの考えを統一し、サービスの質の向上につながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は月2回事業所を訪れ、職員一人ひとりとの関わりを大切にしている。年2回の人事考課面接では職員の半年間の目標を設定し確認するようにし、モチベーションを高めるよう努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内外の研修には積極的に参加するようにしている、法人外については職員全体会にて研修報告をするようにしている。新入職員に対しては、2ヶ月間はマンツーマンの日勤のOJT体制をとり、その後夜勤のマンツーマンOJT4回実施するようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 地域密着型サービス協会の相互研修事業に参加させていただき、同業者との交流や勉強の機会をいただいている。今度は近隣の同業者との交流を図っていきたい。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居相談後、自宅訪問し本人の困っていること、不安なこと、どのようなことがしたいかをゆっくり聞き、事業所での生活の様子など、本人が安心できるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居時に今までの生活歴、家族としての気持ちを十分に聞き取り、話し合いを実施している。入居後は細目に状況報告をし、面会時は職員から声掛けし、来やすい雰囲気をつくるように心がけている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居相談時に本人の状態や家族の状況に応じて、今一番必要なサービスを見極め、必要に応じて他事業所の紹介等を実施するようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 生活の中で利用者ができること、洗い物、掃除、洗濯物をたたむ・干すなど負担にならないように協働しながら生活をしている。自宅に咲いた花を共同室等にかざるなどして皆の役に立っていることを喜びとしている。それに対し感謝の気持ちを表すようにしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 病院の受診、日用品・好みの食べ物を持ってきていただくなど、職員も代行できるが、あえて家族に支援の継続をお願いし絆を大切にしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 近所の知人や元職場の方が訪ねてこられ、会話を楽しんだり、又以前から利用している美容院に行く等、これまでの生活の中で行っていた交流を、継続的にできるよう支援に努めている。 (外部評価) 近隣に居住していた利用者が多く、顔見知りの面会も多い。利用者は自宅や馴染みの店などへの思いが強くある。職員は、機会がある毎に利用者と一緒に馴染みの人や場所と関わりがもてるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 以前近所に住んでいた方が他のユニットで生活しているため、定期的に会話ができるように援助している。利用者同志が援助したり、されたりの関係性を職員が情報伝達をし共有し援助している。又、気の合わない利用者に対してはトラブルにならないよう配慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 法人内の他の事業所に移動した利用者に対しては、こちらの生活状況やケアプランを手渡した。移動日には先に職員が事業所へ出向き精神面のフォローを行った。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 個別の思いや希望を伺い実現に向けて取り組んでいるが、実施できていないところもある。まずはグループホームでの生活に慣れていただくことに重点を置いての援助を行っていますが、今後センター方式等を活用して取り組んでいきたい。 (外部評価) 職員は利用者のアセスメントシートを丁寧に読み込み、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めて、新しい生活に馴染むようにケアに力を入れている。	利用者の生活歴の重要性を熟知したうえで、思いや意向を把握する取り組みがなされている。取り組みが一過性で終わらさないような独自の仕組みづくりに期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) これまでの生活歴については、本人や家族から聞き把握に努めている。自宅からホームに移り環境の変化に混乱しないよう、家族に相談し今まで使用していた馴染みの物や、思い出の品なども持参してきてもらっている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者個々の状態や精神面などは、その日の発言、行動仕草などを観察し把握に努めている。本人のできることと、できないことについては、一緒に職員が実行してみて判断し、職員間で話し合うようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 現在はアセスメント、モニタリング、カンファレンス、ケアプラン作成までケアマネージャーが中心に行っているが、今後はスタッフも利用者のことを知るためにモニタリングから実施するよう計画している。</p> <p>(外部評価) 介護計画の作成は、管理者や計画作成担当者などが先導してきたが、利用者の担当性も取り入れて、職員の意見を反映させている。家族の意向も確認して、モニタリングで評価し、現状に即した見直しをしている。</p>	<p>モニタリングを「できた」とか「概ね達成した」とかの言葉だけでなく、数値など客観性のある評価の仕方を検討することが望ましい。</p>
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 個別の「ケース」には日々の様子を記録し、「健康表」には主に身体面の食事・水分・排泄などを記録して職員間で情報が共有できるように努めている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 本人が外出や買い物、家に帰りたと言われた時等出来る限り希望に沿えるようにしている。受診等家族が対応困難な時は職員で対応している。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) ボランティアの訪問など協力していただき利用者が楽しむことができるよう努めている。今後も運営推進会議などで地域の行事の情報など知り参加していきたい。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 基本的には受診は家族対応で、これまでの本人の主治 医を変更はしていない。家族の都合にて受診対応が困 難な方に対しては、職員が受診対応となるため近隣の 主治医変更をお願いしている。	
			(外部評価) 事業所では、利用者のケアにできるだけ家族等が関わ るよう、かかりつけ医の受診は家族等が行うことを基 本としている。複合施設であるため医療施設があり、 利用者は医療面で安心できる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 利用者の異常や急変時には看護師に報告し指示を得る など連携している。介護職員、看護職員に共に日常の 生活に関しても同じようにかかわりを持っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院の際は医療機関へグループホームでの生活の様子 を報告している。入院中は家族と連絡をしたりし、退 院などがスムーズに運ぶよう努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 終末期については、それぞれ主治医が異なるため話し 合いが出来ていない。重度化に対しては医療的な処置 など必要になった時、家族の意向に沿えるよう話し 合っている。	
			(外部評価) 複合施設でもあり母体法人と連携しているため、利用 者は重度化や終末期には、支援を選択できる環境にあ る。終末期におけるグループホームの役割とは何かを 考えて、利用者の生活の質を優先させた支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 職員が慌てず応急手当や初期対応ができるようにマニュアルを作成しているが、実際の場面に直面した場合の不安はある。今後も定期的に勉強会等を実施していく。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 防火訓練にて避難訓練を行ったが、地域と協力した訓練などはまだ行っていない。今後自治会や地域との協力も呼び掛けていきたい。 (外部評価) 事業所の建物は、最新の設備が整っており、耐震性にも不安はない。また、母体法人の災害対策マニュアルもしっかりしており、それに従って避難訓練も行われている。災害時に地域住民を受け入れることが可能な広いスペースや設備があり、備蓄もされて、地域の社会資源の役割を担っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者のことが個人的に分かるものや、記録など他者に見せる場合は、家族の同意を得ている。声掛けに対しては相手のプライドを傷つけないよう配慮している。 (外部評価) 職員の言葉の響きには優しさと丁寧さがあり、利用者の尊厳やプライバシーにも配慮がある。職員はそれぞれの持ち味を活かしながら、人間味あふれた声かけや対応をしており、利用者の安心感を高めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 飲み物や食事等、利用者が選択できるように配慮し、意思表示しやすいように配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) その人らしさを大切にし1日を生活していただきたいが、食事、入浴、行事等ホームの都合にて1日が終了していることが多い。ホームの流れにならないように努めていきたい。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 馴染みの美容室を希望される場合は支援をしている。ウィッグを持参している方には付けるようにすすめている。朝の更衣の時は選ぶことができる方には、選んだ衣服をきていただいている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 料理に関しては、ユニット内で実施していないが、食事の盛り付けや片づけなど、利用者と実施している。食事は利用者と一緒に摂っている。	
			(外部評価) 食事は、施設の専任スタッフが料理室でまとめて料理し、利用者は温かいままで食べることができる。食事の時間に利用者は職員とゆったり関わられるため、楽しい時間となっている。利用者からの味付けなどの意見は反映されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士よりカロリーや栄養バランスを考えて食事・おやつを提供していただいている。摂取量や水分量は個別の健康表にて把握している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後声掛けし口腔ケアを実施しているが、義歯の方は寝る前に洗浄剤につけるようにしている。拒否されてできていない方もいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 尿意のない利用者には、時間を決めて声掛けし誘導するなどしてトイレで排泄できるように支援している。排泄記録を使用し、その人の排泄パターンをチェックしている。	
			(外部評価) 排泄の自立度は比較的高い利用者が多いが、職員は利用者一人ひとりの様子をさりげなく見守りながら、トイレで排泄できるように支援を行っている。利用者の尊厳を守る意識も実践されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 下剤を服用している方もおられるが、できる限り運動や水分量など把握し、トイレにて自然排便できるよう努めている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 本人の希望にあわせた時間に実施したいが、午後が多くなっているのが現状である。午前中に実施している人もいるが、今後も利用者に応じて好みの時間に入浴できるようにしていきたい。	
			(外部評価) 事業所の浴室は広く介助がしやすい造りになっている。また、施設内には機械浴の設備も整っているため、利用者の様々な身体状況に合わせた入浴支援ができる。入浴が苦手な利用者には希望に応じて、自宅での入浴を支援したこともある。丁寧な個別支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) できるだけ日中活動を増やし、夜間安眠できるように心がけています。こちらから時間を設定して眠っていただくという事は行っていません。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者が服用中の薬については、薬の説明用紙をケースに入れ、スタッフが薬の内容や副作用についてなどわかるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 普段の生活の中で利用者ができることや、できそうなことを一緒にしながら観察しています。家庭菜園や干し柿づくりなどを実施することができた。はじめてのことは一緒にやりながら役割をみつけていきたい。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 利用者の希望どうりの外出は十分にできていない。人員配置を考えると実行が困難となるため、地域の方や家族にも協力を得て、もっと実施できるように計画していきたい。	
			(外部評価) 事業所の特徴である施設内の移動は、ご近所の散歩のようでもあり、他施設の利用者は近隣者とも言える。また、南側の広い駐車場は、空をパノラマ気分で眺められ、日常的な外気欲ができる。施設には団体で出かけられる車両が整っており、利用者の遠出を少しずつ増やしていこうとしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 金銭面に関しては、ホームで預かっている利用者の方が多い。数名本人が所持している。目的としては、お金を使用するというより、本人が精神的に安定するために持参している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話は事務所で使用するため、プライバシーは守られているとは言えない。電話を希望する場合は、いつでも使用できることを声掛けしている。手紙についても依頼時は投函を職員がしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 玄関・居間などは和風にこだわりながら飾りをしている。いつでもユニット間を自由に行き来できるように共用の空間をとり、利用者が窮屈で不快にならないように工夫しています。季節にあった作品を飾ったり、職員が撮った季節の写真の写真を飾るなどして季節感を採り入れている。</p> <p>(外部評価) リビングやダイニングのほかに談話コーナー、施設内には地域交流スペースやリハビリスペースなどがあり、利用者は事業所に居ながら気分転換ができる。リビングのインテリアは落ち着いた色使いに工夫があり、ダイニングの大きな窓からは、公園が一望でき子どもの笑い声が聞こえ、居心地の良い空間づくりである。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 玄関にはちょっと座れるいろりや、リビングの共同生活空間だけでなく、少し離れた所に談話コーナーなど落ち着けるスペースがあります。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 持参物に制限は特にしていません。自宅で使用していたタンス、TV、ソファー、思い出の写真など持参していただき、本人が居心地良く過ごせるよう工夫しています。</p> <p>(外部評価) 居室の床は、フローリングと畳の部屋があり、利用者が選択できる。布団で休みたいという利用者への配慮である。各居室は洗面台が備えられているが、ベッドや家具を置いても車いすが自由に動けるスペースがあり、居心地よく過ごすことができる。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 大きな環境整備はしていないが、安全や自力でできるように考えて、ソファーを移動して車椅子の方が安心して移動しやすいようにするなど工夫しました。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890500303
法人名	社会福祉法人 三恵会
事業所名	グループホームかがやき
所在地	愛媛県新居浜市阿島1丁目7-20
自己評価作成日	平成 24 年 9 月 14 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24 年 10 月 5 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームかがやきは、平成23年11月1日に開設致しました。目の前に市の東浜公園が広がっており、開放的でいつでも気軽に散歩や休憩ができます。ご家族の来訪者が多く、休日には遊具で遊ぶ子供さんや、ゲートボールを楽しむ地域の方と会話を楽しく過ごされています。これからもスタッフ一同「笑顔で、共に、生き生きと」を心に利用者様と一緒に生きていきたいと考えています。又、地域密着型介護老人福祉施設うみかぜとの合築となっているため、これからも協力体制を図りながら、地域の高齢者福祉に貢献していきたいと考えております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広い敷地に立地している複合施設内の事業所である。建物や設備は耐震や防災への最新で細やかな配慮があり、利用者の安全安心が守られている。また、公民館並みの地域交流スペースがあり、キッチンや車いすトイレを備え、地域の社会資源としての役割を担うという意気込みが感じられる。管理者やケア責任者は高齢福祉のキャリアが長く、利用者の状態に合わせた支援と事業所運営に取り組んでいる。高齢福祉のケア全般を見据えた複合施設の中で、認知症ケアの事業所として独自性のある取り組みに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームかがやき

(ユニット名) 絆

記入者(管理者)
氏名 小笠原 博子

評価完了日 平成24年9月14日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 合築であるため事業開始時に、施設理念を作成し掲示をし、かつ月曜日の朝の申し送り時に、復唱していたが、これを踏まえ、かがやき独自の理念が必要との職員の声があり、具体的な理念を作成しユニット内に掲示し実践強化に取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 事業所の理念にある「一緒に」という言葉を大切にしている。利用者と一緒に生活することをグループホームの独自性として、ケアの基盤としている。ケア責任者と職員は、利用者との関わりの中で「一緒に」を具体化するよう努めて、理念の共有化にも力を入れている。</p>	ケア責任者は、一緒にいる事とは何のためか、また一緒に生活することで、どのような支援を行うべきかと、理念の本来の意義を見極めようと努力しており、その成果を期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 施設の庭に観音像があり、地域の方が散歩がてらお参りに来たとき、挨拶を交わしたり話をしたりしている。又市の公園・グラウンドが隣接しているため、近隣にすむ人たちとふれ合う機会が多い。地域の神社への初詣や、スーパーへの買い物などは日常的に実施している。</p> <p>(外部評価) 事業所は複合施設の中にあり、色々な機能を備えた地域交流スペースがある。地域に密着することや、地域の社会資源としての役割を担うという強い意思が感じられる。</p>	開設後まだ一年も経っていない事業所であるが、利用者の生活も事業所に馴染み、生活に落ち着きが見られる。今後は、地域に目を向けて、地域密着型ならではの、近隣住民との繋がりを大切にした取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 現在は認知症の研修等に職員が積極的に参加し、事業所内で「理解や支援方法」を勉強している状況で、地域住民を対象に活動はできていない。相談等にはアドバイスさせていただいている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 事業所での状況をパワーポイント等でお知らせし、質問意見、要望を伺うようにしている。その場で返答できるものは実施し、内容に応じて検討し次回に報告するものもある。10/5に外部評価を受けるので状況報告の実施やサービス向上に生かしていきたい。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議では、グループホームについて地域に理解を広げるため、丁寧に資料を作成し説明をしている。資料の準備には時間をかけており、運営推進会議を地域と繋がる場としていることが分かる。</p>	<p>運営推進会議の中で、参加者が利用者の生活を実感できるような工夫や、事業所が開催しようとしている催し物についての意見交換など、さらなる内容の充実に期待したい。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 開設時のことや、制度についての問い合わせ等で密に連絡を取ることができている。会議にも参加していただいているので、アドバイスや相談等をしていただきながら連携を深めている。</p> <p>(外部評価) 母体法人の福祉事業には歴史があり、事業所は複合施設の中にあるため、管理者は市担当者と普段から高齢者福祉全般での関わりがあり、相談や話し合いは事業所単独の問題に留まらず多岐に渡っており、行政とは双方向な協力関係がある。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 2ヶ月に1回身体拘束廃止委員会を開催し、日常の行動や発言が身体拘束になっていないか話し合い、議事録にて職員全員に周知している。毎年1回職員全体の勉強会を実施し「身体拘束禁止の対象となる具体的な行為」徹底の理解を図っている。玄関は自由に入出りできるようにしている。施設で指針を作成している</p> <p>(外部評価) 身体拘束ゼロは、法人全体で取り組むケアの基本としている。そのため、事業所の設計は利用者を見守りやすいように配慮されている。職員の「声かけがまだまだです」という言葉には、身体拘束ゼロへの思いが感じられる。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 2ヶ月に1回虐待防止委員会を開催し、日常の私達の行動や発言が虐待になっていないか話し合い、議事録にて職員全員に周知している。年1回職員全体会にて勉強会を実施しマニュアル等に基づいて、発見時の対応方法等を周知している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在制度を活用している利用者はいない。研修参加者が制度の説明をする程度で、他の職員は十分理解できていない。必要な時に支援出来る体制が万全とは言えない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約締結時には時間をかけて十分説明するように努めている。介護報酬の改定、制度改正により、利用料が増加する場合などは文章による通知と口頭での説明をする等している。家族等の不安や疑問点にはその都度説明を行い、理解、納得していただくように配慮している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議には、毎回異なる家族や利用者が参加し意見、要望等を伺うようにしている。意見箱等も設置している。市の介護相談員にも定期的に来ていただけるよう依頼中である。得られた意見、苦情については、即反映できるよう取り組んでいる。 (外部評価) 利用者の生活の質の向上には、家族等の協力が必要であるとの認識を持っている。そのため、家族等との話し合いには時間を割いて、意見や要望を言いやすいように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 月1回の全体会、2ヶ月に1回のユニット会、年2回の人事考課面接（個別）を実施し、職員の声に耳を傾け、やりがいや働きやすい職場作りに努めている。</p> <p>(外部評価) ケア責任者は、ケア現場で一つひとつ丁寧に職員と話し合い、また、職員を育てるという視点でも、意見の聞き取りを行っている。十分な意思疎通をして、利用者へのケアの考えを統一し、サービスの質の向上につながっている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 代表者は月2回事業所を訪れ、職員一人ひとりとの関わりを大切にしている。年2回の人事考課面接では職員の半年間の目標を設定し確認するようにし、モチベーションを高めるよう努めている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 法人内外の研修には積極的に参加するようにしている、法人外については職員全体会にて研修報告をするようにしている。新入職員に対しては、2ヶ月間はマンツーマンの日勤のOJT体制をとり、その後夜勤のマンツーマンOJT4回実施するようにしている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 地域密着型サービス協会の相互研修事業に参加させていただき、同業者との交流や勉強の機会をいただいている。今度は近隣の同業者との交流を図っていきたい。</p>	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入居相談後、自宅訪問し本人の困っていること、不安なこと、どのようなことがしたいかをゆっくり聞き、事業所での生活の様子など、本人が安心できるように努めている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居時に今までの生活歴、家族としての気持ちを十分に聞き取り、話し合いを実施している。入居後は細目に状況報告をし、面会時は職員から声掛けし、来やすい雰囲気をつくるように心がけている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居相談時に本人の状態や家族の状況に応じて、今一番必要なサービスを見極め、必要に応じて他事業所の紹介等を実施するようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 生活の中で利用者ができること、洗い物、掃除、洗濯物をたたむ・干すなど負担にならないように協働しながら生活をしている。作品を共同生活室などに飾って皆に楽しんでもらっている。役に立っていることを喜びとしている。こちらからは感謝の気持ちを表すようにしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 病院の受診、日用品・好みの食べ物を持ってきていただくなど、職員も代行できるが、あえて家族に支援の継続をお願いし絆を大切にしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 近所の知人や元教員の利用者の所に、教え子の方が訪問したり、又以前から利用している美容院に行く等、これまでの生活の中で行っていた交流を、継続的にできるよう支援に努めている。 (外部評価) 近隣に居住していた利用者が多く、顔見知りの面会も多い。利用者は自宅や馴染みの店などへの思いが強くある。職員は、機会がある毎に利用者と一緒に馴染みの人や場所と関わりがもてるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 以前近所に住んでいた方が他のユニットで生活しているため、定期的に会話ができるように援助している。利用者同志が援助したり、されたりの関係性を職員が情報伝達をし共有し援助している。又、気の合わない利用者に対してはトラブルにならないよう配慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 法人内の他の事業所に移動した利用者に対しては、こちらの生活状況やケアプランを手渡した。移動日には先に職員が事業所へ出向き精神面のフォローを行った。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 個別の思いや希望を伺い実現に向けて取り組んでいるが、実施できていないところもある。まずはグループホームでの生活に慣れていただくことに重点を置いての援助を行っていますが、今後センター方式等を活用して取り組んでいきたい。 (外部評価) 職員は利用者のアセスメントシートを丁寧に読み込み、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めて、新しい生活に馴染むようにケアに力を入れている。	利用者の生活歴の重要性を熟知したうえで、思いや意向を把握する取り組みがなされている。取り組みが一過性で終わらさないような独自の仕組みづくりに期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) これまでの生活歴については、本人や家族から聞き把握に努めている。自宅からホームに移り環境の変化に混乱しないよう、家族に相談し今まで使用していた馴染みの物や、思い出の品なども持参してきてもらっている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者個々の状態や精神面などは、その日の発言、行動仕草などを観察し把握に努めている。本人のできることと、できないことについては、一緒に職員が実行してみて判断し、職員間で話し合うようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 現在はアセスメント、モニタリング、カンファレンス、ケアプラン作成までケアマネージャーが中心に行っているが、今後はスタッフも利用者のことを知るためにモニタリングから実施するよう計画している。</p> <p>(外部評価) 介護計画の作成は、管理者や計画作成担当者などが先導してきたが、利用者の担当性も取り入れて、職員の意見を反映させている。家族の意向も確認して、モニタリングで評価し、現状に即した見直しをしている。</p>	<p>モニタリングを「できた」とか「概ね達成した」とかの言葉だけでなく、数値など客観性のある評価の仕方を検討することが望ましい。</p>
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 個別の「ケース」には日々の様子を記録し、「健康表」には主に身体面の食事・水分・排泄などを記録して職員間で情報が共有できるように努めている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 本人が外出や買い物、家に帰りたと言われた時等出来る限り希望に沿えるようにしている。受診等家族が対応困難な時は職員で対応している。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) ボランティアの訪問など協力していただき利用者が楽しむことができるよう努めている。今後も運営推進会議などで地域の行事の情報など知り参加していきたい。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 基本的には受診は家族対応で、これまでの本人の主治 医を変更はしていない。家族の都合にて受診対応が困 難な方に対しては、職員が受診対応となるため近隣の 主治医変更をお願いしている。	
			(外部評価) 事業所では、利用者のケアにできるだけ家族等が関わ るよう、かかりつけ医の受診は家族等が行うことを基 本としている。複合施設であるため医療施設があり、 利用者は医療面で安心できる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 利用者の異常や急変時には看護師に報告し指示を得る など連携している。介護職員、看護職員と共に日常の 生活に関しても同じようにかかわりを持っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院の際は医療機関へグループホームでの生活の様子 を報告している。入院中は家族と連絡をしたりし、退 院などがスムーズに運ぶよう努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 終末期については、それぞれ主治医が異なるため話し 合いが出来ていない。重度化に対しては医療的な処置 など必要になった時、家族の意向に沿えるよう話し 合っている。	
			(外部評価) 複合施設でもあり母体法人と連携しているため、利用 者は重度化や終末期には、支援を選択できる環境にあ る。終末期におけるグループホームの役割とは何かを 考えて、利用者の生活の質を優先させた支援をしてい る。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 職員が慌てず応急手当や初期対応ができるようにマニュアルを作成しているが、実際の場面に直面した場合の不安はある。今後も定期的に勉強会等を実施していく。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 防火訓練にて避難訓練を行ったが、地域と協力した訓練などはまだ行っていない。今後自治会や地域との協力も呼び掛けていきたい。 (外部評価) 事業所の建物は、最新の設備が整っており、耐震性にも不安はない。また、母体法人の災害対策マニュアルもしっかりしており、それに従って避難訓練も行われている。災害時に地域住民を受け入れることが可能な広いスペースや設備があり、備蓄もされて、地域の社会資源の役割を担っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者のことが個人的に分かるものや、記録など他者に見せる場合は、家族の同意を得ている。声掛けに対しては相手のプライドを傷つけないよう配慮している。 (外部評価) 職員の言葉の響きには優しさと丁寧さがあり、利用者の尊厳やプライバシーにも配慮がある。職員はそれぞれの持ち味を活かしながら、人間味あふれた声かけや対応をしており、利用者の安心感を高めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 飲み物や食事等、利用者が選択できるように配慮し、意思表示しやすいように配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) その人らしさを大切にし1日を生活していただきたいが、食事、入浴、行事等ホームの都合にて1日が終了していることが多い。ホームの流れにならないように努めていきたい。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 馴染みの美容室を希望される場合は支援をしている。ウィッグを持参している方には付けるようにすすめている。朝の更衣の時は選ぶことができる方には、選んだ衣服をきていただいている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 料理に関しては、ユニット内で実施していないが、食事の盛り付けや片づけなど、利用者と実施している。職員の食事は利用者と一緒に摂っている。	
			(外部評価) 食事は、施設の専任スタッフが料理室でまとめて料理し、利用者は温かいままで食べることができる。食事の時間に利用者は職員とゆったり関わられるため、楽しい時間となっている。利用者からの味付けなどの意見は反映されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士よりカロリーや栄養バランスを考えて食事・おやつを提供していただいている。摂取量や水分量は個別の健康表にて把握している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後声掛けし口腔ケアを実施しているが、義歯の方は寝る前に洗浄剤につけるようにしている。拒否されてできていない方もいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 尿意のない利用者には、時間を決めて声掛けし誘導するなどしてトイレで排泄できるように支援している。排泄記録を使用し、その人の排泄パターンをチェックしている。	
			(外部評価) 排泄の自立度は比較的高い利用者が多いが、職員は利用者一人ひとりの様子をさりげなく見守りながら、トイレで排泄できるように支援を行っている。利用者の尊厳を守る意識も実践されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 下剤を服用している方もおられるが、できる限り運動や水分量など把握し、トイレにて自然排便できるよう努めている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 本人の希望にあわせた時間に実施したいが、午後が多くなっているのが現状である。午前中に実施している人もいるが、今後も利用者に応じて好みの時間に入浴できるようにしていきたい。	
			(外部評価) 事業所の浴室は広く介助がしやすい造りになっている。また、施設内には機械浴の設備も整っているため、利用者の様々な身体状況に合わせた入浴支援ができる。入浴が苦手な利用者には希望に応じて、自宅での入浴を支援したこともある。丁寧な個別支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) できるだけ日中活動を増やし、夜間安眠できるように心がけています。こちらから時間を設定して眠っていただくという事は行っていません。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者が服用中の薬については、薬の説明用紙をケースに入れ、スタッフが薬の内容や副作用についてなどわかるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 普段の生活の中で利用者ができることや、できそうなことを一緒にしながら観察しています。家庭菜園や干し柿づくりなどを実施することができた。はじめてのことは一緒にやりながら役割をみつけていきたい。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 利用者の希望どうりの外出は十分にできていない。人員配置を考えると実行が困難となるため、地域の方や家族にも協力を得て、もっと実施できるように計画していきたい。 (外部評価) 事業所の特徴である施設内の移動は、ご近所の散歩のようでもあり、他施設の利用者は近隣者とも言える。また、南側の広い駐車場は、空をパノラマ気分で眺められ、日常的な外気欲ができる。施設には団体で出かけられる車両が整っており、利用者の遠出を少しずつ増やしていこうとしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 金銭面に関しては、ホームで預かっている利用者の方が多い。数名本人が所持している。目的としては、お金を使用するというより、本人が精神的に安定するために持参している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話は事務所で使用するため、プライバシーは守られているとは言えない。電話を希望する場合は、いつでも使用できることを声掛けしている。手紙についても依頼時は投函を職員がしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 玄関・居間などは和風にこだわりながら飾りをしている。いつでもユニット間を自由に行き来できるように共用の空間をとり、利用者が窮屈で不快にならないように工夫しています。季節にあった作品を飾ったり、職員が撮った季節の写真の写真を飾るなどして季節感を採り入れている。</p> <p>(外部評価) リビングやダイニングのほかに談話コーナー、施設内には地域交流スペースやリハビリスペースなどがあり、利用者は事業所に居ながら気分転換ができる。リビングのインテリアは落ち着いた色使いに工夫があり、ダイニングの大きな窓からは、公園が一望でき子どもの笑い声が聞こえ、居心地の良い空間づくりである。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 玄関にはちょっと座れるいろりや、リビングの共同生活空間だけでなく、少し離れた所に談話コーナーなど落ち着けるスペースがあります。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 持参物に制限は特にしていません。自宅で使用していたタンス、TV、ソファ、思い出の写真など持参していただき、本人が居心地良く過ごせるよう工夫しています。</p> <p>(外部評価) 居室の床は、フローリングと畳の部屋があり、利用者が選択できる。布団で休みたいという利用者への配慮である。各居室は洗面台が備えられているが、ベッドや家具を置いても車いすが自由に動けるスペースがあり、居心地よく過ごすことができる。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 大きな環境整備はしていないが、安全や自力でできるように考えて、ソファを移動して車椅子の方が安心して移動しやすいようにするなど工夫しました。</p>	